

1

明細書

発明の名称

地面に生えている樹木と人間を長時間電氣的に接触させる方法

技術分野

本発明は、樹木と人間を長時間電氣的に接触させる装置、健康増進方法、医療行為である。樹木と、導電性繊維、導電性物質を、導線でつなぎ、その導電性繊維の上で寝たり、座ったりすることにより、地面に生えている樹木と長時間電位的、電氣的に平衡になろうとする装置、健康法である。人間の体の中にたまっている樹木に比べて高い電荷が、導電性繊維、導電性物質を伝わって片方の導線から、樹木に向かって流れていき、逆に、人間の体の中にある、樹木に比べて低い電荷に向けて、樹木からもう片方の導線を通して、電荷が流れていく。

背景技術

地面に生えている樹木に直接手でさわったり、だきついたりして健康になろうとする方法がある。これは、人間のなかにたまっている異常な電荷を樹木に吸収してもらおうという意味もあると考えられる。これを、導電性繊維などを使って、長時間行えるようにする。非特許文献5には、地面に生えている樹木に絶縁体をはさまず触って、異常な電荷を逃がすことは、体にとってよいと書かれてある。

先行技術文献

特許文献

特許文献 1

米国特許出願公開第 2008/68773 号

特許文献 2

特開 2006-115677 号広報

非特許文献 1 Yahoo ニュース JAPAN 4 月 20 日

木にハグして、コロナ、ストレスを解消、は実は実証されている療法だ

田中淳夫 森林ジャーナリスト

非特許文献 2 j-stage 海外における森林療法の現況 (2) ヨーロッパ編

上原 巖 東京農業大学

非特許文献 3 生体電位と樹木 角谷 和男 木材研究 資料

(1986) 22 1-9 京都大学学術情報リポジトリ 紅

非特許文献4 体内の電磁波を取り除く 静電気デトックス の方法
ケンカツ 2018年10月17日更新

非特許文献5 血流は静電気デトックスでよみがえる (宝島社)

西谷 雅史

発明の概要

発明が解決しようとする課題

人間と地面に生えている樹木が、電位的、電氣的に直接触れている状態をつくりだし、健康増進、病気の治療に役立てる。樹木に長時間抱きついてるのは困難だからである。地面に触れて、体の中にある異常な電荷を逃がそうとする健康法があるが、地面に生えていて、光合成、水を吸収して生きている樹木の方が、電位的に人間にとって良いものであると考えられる。なぜなら、我々人間は、類人猿から進化したからである。類人猿は、木の上でくらし、常に、樹木と電位的、電氣的に平衡である。類人猿から進化した、我々も樹木と電位的に平衡である方が、体にとって良いという、遺伝子を持っていると考えられる。

非特許文献3は、樹木の温度を利用しようとするものである。だから、実施例で、ステンレスの板に絶縁体のビニールをかぶせてしまっている。これでは、樹木と長時間電位的に平衡にはならない。樹木と長時間電位的に平衡になることを目的としたものではない。樹木に直接人間が絶縁体をはさまずに接触して、樹木と電位的に平衡になることが、健康増進につながるという考えがまったくない。私たちは、類人猿から進化しており、サル、類人猿は樹木の上で暮らし、常に直接肌で樹木にふれており電位的に樹木と平衡であると考えられる。私たち人間も、樹木と電位的に平衡状態である生きることが自然であるという遺伝子を持っているのかもしれない。近年、携帯電話、電子機器の発達により、異常な電磁波を身体に浴び、からだにとって異常な電荷が蓄積される可能性もある。これを、地面に逃がそうとするのが、特許文献1であるが、地面に生えている樹木は、水を吸収し、植物細胞でできており、光合成も行っており、地面である、砂、土とは違った電位をもっている。人間の祖先である類人猿も、樹木の上で暮らし、土の上でずっと生きているわけではない。だから、樹木と電位的に平衡である方が、人間の健康にとって良い可能性がある。これは、未来に証明されかもしれない。非特許文献3には、樹木と地面の電位差にかんしてかかれてあ

る。特許文献1のように、地面に接していたら、重病にならないのなら、プロサーファーは、長生きするはずである。しかし、プロサーファーで、重病で、若くして死んでいる人もいる。だから、我々は類人猿から進化したから樹木に電位的に長時間接して生きた方が、健康的である。特許文献2では、1本の導線でつながれている。1本の導線でも、たしかに、電荷は移動する。しかし、特許文献2では、絶縁体のビニールをかぶせているし、電位的なことはまったく考えず、温度だけのことを考えている。1本の導線でも良いが、効果が出にくく、電気がとりにくい。しかし電気の通りやすい一本の導線で、樹木と、導電性繊維、導電性器具をつないで、それに、人間が絶縁体をはさまず、電気が通る状態で、長時間接触しても平衡状態にできないことはない。

課題を解決するための手段

地面に生えている樹木と、電気の通る物質でできた布団や、絨毯、ベットマット、シーツなどを電気を通す導線2か所以上でつなぎ、その絨毯や、布団、ベットマット、座布団の上で人間が長時間寝たり、座ったりして、電氣的に樹木に長時間触れている状態にする。

電気を通す繊維を使って、シーツ、ベットマット、布団などをつくり、それを電気を通す導線を使って樹木と2か所以上でつなぎ、その上に人間が寝ることにより、常に電氣的、電位的に人間が実際に地面に生えている樹木に直接触れている状態をつくりだす。人間の中にある、異常な電荷は、人間の表面から、導電性のシーツ、ベットマットなどを通し、導線を伝わって、樹木に逃げていく。それぞれ2か所以上でつなぐことにより、樹木と電位的に平衡な状態をつくりだすことができる。特許文献1のように、地面に逃がすのではなく、地面に生えている樹木と長時間電位的に平衡になることにより、健康増進に役立てる。直接触れているとは、人体と樹木が電気が通う状態であることを示す。人間と樹木が電流が通る状態であることを示す。また、椅子などの導電性の器具に、導線を取り付けて、その上に、電気が通る状態で、人間が直接肌に接し、健康増進にやくだてることができる。人間の体内には、正だけではなく、負の電荷もたまることがある。だから、2か所以上でつないだ方が、効果が高い。

一本で一方通行では電気が流れにくい。1本でも電位的に平衡になるが、体から電荷が逃げにくく、時間がかかる。人間の中には、樹木に比べて、電位的に高い部分もあれば、低い部分もあるからである。だから、片方の導線から、樹木に電流が流れて、もう片方の導線から、人間に電流が流れることもある。もちろん人間から、樹木に1方向で電流が流れることもある。地面にはえている樹木は、地面とは違う電位をもっており、電気を通す。導電性の器具とは、人間が肌で触れる部分が、導電性でできており、そこに、樹木と導線でつなげる。電気が人間とかようなものである。

発明の効果

人間が長時間樹木と電位的、電氣的に接触している状態をつくりだすことによって、健康増進、医療に使える。

電気を通す繊維を使って、シーツ、ベットマット、布団などをつくり、それを電気を通す導線を使って樹木と2か所以上でつなげ、その上に人間が寝ることにより、常に電氣的、電位的に人間が実際に地面に生えている樹木に直接触れている状態をつくりだす。人間の中にある、異常な電荷は、人間の表面から、導電性のシーツ、ベットマットなどを通し、導線を伝わって、樹木に逃げていく。それぞれ2か所以上でつなぐことにより、樹木と電位的に平衡な状態をつくりだすことができる。特許文献1のように、地面に逃がすのではなく、地面に生えている樹木と長時間電位的に平衡になることにより、健康増進に役立てる。直接触れているとは、人体と樹木が電気が通う状態であることを示す。人間と樹木が電流が通る状態であることを示す。また、椅子などの導電性の器具に、導線を取り付けて、その上に、電気が通る状態で、人間が直接肌で接し、健康増進にやくだてることができる。人間の体内には、正だけではなく、負の電荷もたまることがある。だから、2か所以上でつないだ方が、効果が高い。一本で一方通行では電気が流れにくい。1本でも電位的に平衡になるが、体から電荷が逃げにくく、時間がかかる。人間の中には、樹木に比べて、電位的に高い部分もあれば、低い部分もあるからである。だから、片方の導線から、樹木に電流が流れて、もう片方の導線から、人間に電流が流れることもある。もちろん人間から、樹木に1方向で電流が流れることもある。地面にはえている樹木は、地面とは違う電位をもっており、電気を通す。導電性の器具とは、人間が肌で触れる部分が、導電性でできており、そこに、樹木と導線でつなげる。電気が人間とかようなものである。

図面の簡単な説明

図1は、地面に生えている樹木と電気を通す繊維などでできた布団、ベットマット、絨毯、座布団、シーツなどを電気を通す導線で2か所以上で結び、その上で、人間が絶縁体をはさまず寝たり座ったりしている図である。

図2は、地面に生えている樹木と電気を通す繊維などでできた布団、ベットマット、絨毯、座布団、シーツなどを電気を通す導線で1か所で結び、その上で、人間が絶縁体をはさまず寝たり座ったりしている図である。

図3は、地面に生えている樹木と導電性物質でできた椅子などを電気を通す導線で1か所で結び、その上で、人間が絶縁体をはさまず寝たり座ったりしている図である。

図4は、地面に生えている樹木と導電性物質でできた椅子などを電気を通す導線で2か所以上で結び、その上で、人間が絶縁体をはさまず寝たり座ったりしている図である。

発明を実施するための形態

図1のように、地面に生えている樹木と、電気を通す布団や、ベットマット、シーツを2か所以上で導線で結び、その上に人間が寝たり、座ったりして、電位的、電気的に樹木に直接長時間触っている状態をつくりだす。樹木には、2か所以上何か所でも導線何本でもよいが、導線を直接、樹木を傷つけないよう、ゴムやガムテープで外れないように接続する。電気を通す布団や、絨毯や、ベットマット、にも2か所以上で全体に電気が通るように接続する。人間はその絨毯や、ベットマット、布団に、絶縁体を挟まず接する。人間の体の中に樹木より高い電位があった場合、電流は人間の中から、体表面に移動し、導電性繊維、物質を通り、一方の導線から樹木に向かって流れる。人間の体の中に、樹木より低い電位があった場合は、電流は樹木からもう一方の導線を通して、導電性繊維、物質を伝わり、体表面から人間の体の中に流れる。一本の導線でも、可能ではあるが、人間と地面に生えている樹木が電位的に平衡になるまで時間がかかるだろう。それぞれ2か所以上で接続するのが理想である。導線は、導電性物質や、導電性繊維に電流が通るように接続する。人間が触れる導電性繊維、導電性物質は、他の導電性物質、電化製品に接触しないようにする。人間が触れる、導電性繊維、物質は、地面に生えている樹木とだけ導線を通じて接触し、他の導電性物質、電荷をもっているものとは電気の通らない絶縁状態でなければいけない。樹木に取り付ける導線も、他の電氣的刺激を受けてはいけない。樹木と、導線を接続する部分に他の電荷がはいりこんではいけない。

実施例 1

図 1 のように、地面に生えた樹木と、導電性の繊維やシーツ、布団、座布団などをそれぞれ 2 か所以上導線で結び、その上で絶縁体をはさまず人間が寝たり、座ったりする。シーツや毛布にくるまってもよい。導電性のシーツなどは、他の導電性物質や、電荷をもっているものに触れないようにする。

実施例 2

図 4 のように樹木と導線でむすんだ導電性物質でできた椅子に、絶縁体をはさまず、こしかけたり、寝たりすればよい。椅子などは、他の導電性物質、電荷に接触しないようにする。

産業上の利用可能性

樹木に直接触って、体の中にたまっている異常な電荷を取り除こうという健康法はある。それを長時間行えるようにして、健康増進、医療に役立てる。

地面に生えている樹木を直接手で触れたり、抱きついたりして、体の中にたまっている異常な電荷を樹木に逃がすという健康法はある。しかし、長時間抱きついたり触ったりすることは、難しいので、それを、導線と電気を通す繊維などを使って、寝たりして行う。また、都会は高層マンションばかりで、庭が無く、地面に生えている太い樹木が少ない。そのような太い樹木に導線をくっつけることができる施設などで、利用できる可能性がある。

符号の説明

- 1 地面に生えている樹木
- 2 電気を通す導線
- 3 電気を通す布団、絨毯、シーツ、ベットマット、座布団など
- 4 人間
- 5 導電性物質で出来た、椅子など

請求の範囲

請求項 1

地面に生えている樹木と、電気の通る布団や、絨毯、ベットマット、シーツ、座布団などを、電気の通る導線でそれぞれ2か所以上で接続し、人間がその上で寝たり、座ったりして、樹木に電氣的、電位的に絶縁体をはさまず接触している状態を長時間つくり出す装置。

請求項 2

地面に生えている樹木と、電気の通る布団や、絨毯、ベットマット、シーツ、座布団などを、電気の通る導線でそれぞれ2か所以上で接続し、人間がその上で寝たり、座ったりして、樹木に電氣的、電位的に絶縁体をはさまず接触している状態を長時間つくり出す方法

請求項 3

地面に生えている樹木と、導電性物質、導電性繊維を、導線で接続し、人間がその物質、繊維に、絶縁体を挟まず長時間接触し、樹木と電位的、電氣的に長時間接触している状態を作り出す、装置。

請求項 4

地面に生えている樹木と、導電性物質、導電性繊維を、導線で接続し、人間がその物質、繊維に、絶縁体を挟まず長時間接触し、樹木と電位的、電氣的に長時間接触している状態を作り出す、方法。

請求項 5

地面に生えている樹木と、導電性物質、導電性繊維を、それぞれ2か所以上導線で接続し、人間がその物質、繊維に、絶縁体を挟まず長時間接触し、樹木と電位的、電氣的に長時間接触している状態を作り出す、装置。

請求項 6

地面に生えている樹木と、導電性物質、導電性繊維を、それぞれ2か所以上導線で接続し、人間がその物質、繊維に、絶縁体を挟まず長時間接触し、樹木と電位的、電氣的に長時間接触している状態を作り出す、健康法。